

# クローズアップ



## 心を合わせた成果を発表

2月14日、児童文化センター合唱団・ジュニアオーケストラ発表会を市民文化会館で行いました。今回は、合唱団40周年、ジュニアオーケストラ20周年の記念発表会。アンコールでは会場のみんで「エーデルワイス」を歌い、心温まる発表会を盛り上げました。

ライブ・イン・前橋が2月13日・14日に開催されました。14日には前橋テルサで映画「虹の街」の上映会が行われ、上映後に監督と出演者が登場。観客は、本市を舞台にした感動のストーリーに惜しみない拍手を送っていました。



## 前橋を愛する心が映画に

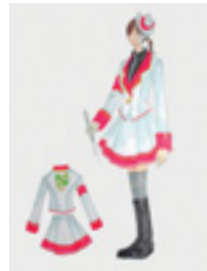
2月21日、高崎市文化会館で前橋高崎文化連携事業・市民ダンスコンテストを開催。予選を勝ち上がった20チームの熱いダンスバトルに、観客は大きな声援を送っていました。



## 若さと熱気が会場にあふれる

## 白銀の赤城山を家族で満喫

「赤城山雪まつり」が2月11日、大沼湖畔あかぎ広場で開催。雪だるま作りやパン食い競争などのほか、氷結した大沼ではワカサギ釣り大会も行われました。会場を訪れた家族連れは、笑顔あふれる楽しい1日を過ごしました。



「信じられませんでした。わたしのデザインした服を着てもらえるのは光栄です。とてもうれしいです」

現在、前橋文化服装専門学校で1年。今回のデザインは、いくつか考えた中から若い女性に着ること、演技する女性をイメージし、清潔感のあふれるものを選んで応募した。もともとファッションには興味があった。ファッション関係の道に進もうと思ったのは高2の時。洋服を買いに行ったときに、本当に欲しい服はないな、ちょっと違うなと感じた。自分のイメージに近い

「夢は、着る人の魅力や個性を引き出せる服を作ること。そのまま着てもいいし、着た人なりにアレンジを加えてかわいくもなり、格好よくもなるような服をデザインしたい」今はファッションやデザインを勉強中の若いつぼみ。きらりと輝くセンスで夢を実現し、大きな花を咲かせてほしい。

「昔から絵や読書が好きでした。絵を描くことはデザインをするときに生かされています」将来については、服のデザインやファッション関係の仕事に進みたいと話す。

## いきいき まえばし人



県警音楽隊カラーガード衣装をデザイン  
竹内 ひかるさん・19歳  
粕川町膳

## 着る人の魅力を引き出せる服を

県警音楽隊カラーガードの衣装が13年ぶりに一新した。昨年9月に公募され、応募数47作品の中から採用となった。

服はあるが、どうしてもしっくりこない。それならば、自分がデザインして、自分で作ればと考えたことがきっかけ。現在はモントーン系のデザインが好きだという。

**いにしえ 万華鏡 その十二**

問い合わせは 文化財保護課 ☎231-9531

### 市民プロジェクト事業で出土品を再現

#### 国史跡 前二子古墳の横穴式石室

西大室町の大室公園にある前二子古墳。この古墳の石室は東国に横穴式石室が導入された初期の物で、その代表例といえます。上から見ると羽子板のような形をした石室は長さ14メートルあり、まるで黄泉の国へと続いているように感じられます。

この石室は、今から1322年前の明治11(1878)年に地元の人々によって開口されました。この時の様子を克明に記録した古文書や絵図は、「根岸孝一家文書」として県立文書館に保管されています。文化財保護課では、発掘された

た土器類をはじめ玉類などのアクセサリー、馬に付ける金銅製の飾り金具やフック金具など、総数750点を数える出土品を保管し、一部を展示しています。

築造からすでに1,500年が過ぎたこの石室。あちこちですき間や亀裂が目立ち、崩壊の恐れがあったため、平成14年から3年かけて解体と積み直しを行いました。現在では安心して見学できるようになっています。

こうして新しくなった石室に副葬品の配置を再現しようと始まったのが、前二子古墳石室復元市民プロジェクト事業。このプロジェクトでは、残された絵図や出土品をもとに平成18年から土器や馬具、鏡、玉類などのレプリカの製作を行い、ついに昨年完成の運びとなりました。現在、石室内で作品を展示・公開しています。

6世紀、赤城南ろくで大古墳を築いた豪族の栄華に思いをはせてみませんか。



石室内に展示された復元品